

ネットモニター調査結果 - '23年7月期 -

ご協力いただいたモニター数：227社
調査期間：2023年8月1日～8日

《7月の景況判断に関する要点》（図A、図B、図C）

景気は、持ち直し基調にあるが、弱めの動き

- 7月の景況（前月比）をみると、「上昇・好転」の割合が0.9ポイント上昇して26.0%、「下降・悪化」は1.6ポイント上昇して23.8%となり、DIは0.7ポイント下降して2.2となった。
業種別DIは、製造業で4.9ポイント下降して0.0、非製造業で2.3ポイント上昇して3.8となった。
- ＜上昇・好転要因＞は、「内需が増大したから」が55.9%と突出して高く、続いて「時期的、季節的な要因で」が44.1%、「輸出が増大したから」、「他社との競合の状況で」がいずれも10.2%となった。
- ＜下降・悪化要因＞は、「内需が減少したから」が51.9%と最も高く、次いで「時期的、季節的な要因で」が35.2%、「原材料・仕入れ価格などコストが上昇したから」が22.2%と続いた。
- 3ヵ月後（10月）の見通しは、「上昇・好転」が4.0ポイント下降して29.1%、「下降・悪化」が0.9ポイント上昇して18.9%となり、DIは4.9ポイント下降して10.2となった。
- 7月の前年同月比は、「上昇・好転」が0.1ポイント上昇して26.9%、「下降・悪化」が0.9ポイント上昇して25.6%となり、DIは0.8ポイント下降して1.3となった。
業種別DIは、製造業で5.4ポイント下降して-8.3、非製造業で2.6ポイント上昇して8.4となった。

注：ネットモニター調査は、2019年4月から大阪市経済戦略局と（公財）大阪産業局が共同実施しており、両調査の回答を集約のうえ、とりまとめて結果を公表しております。

図 A 景況判断

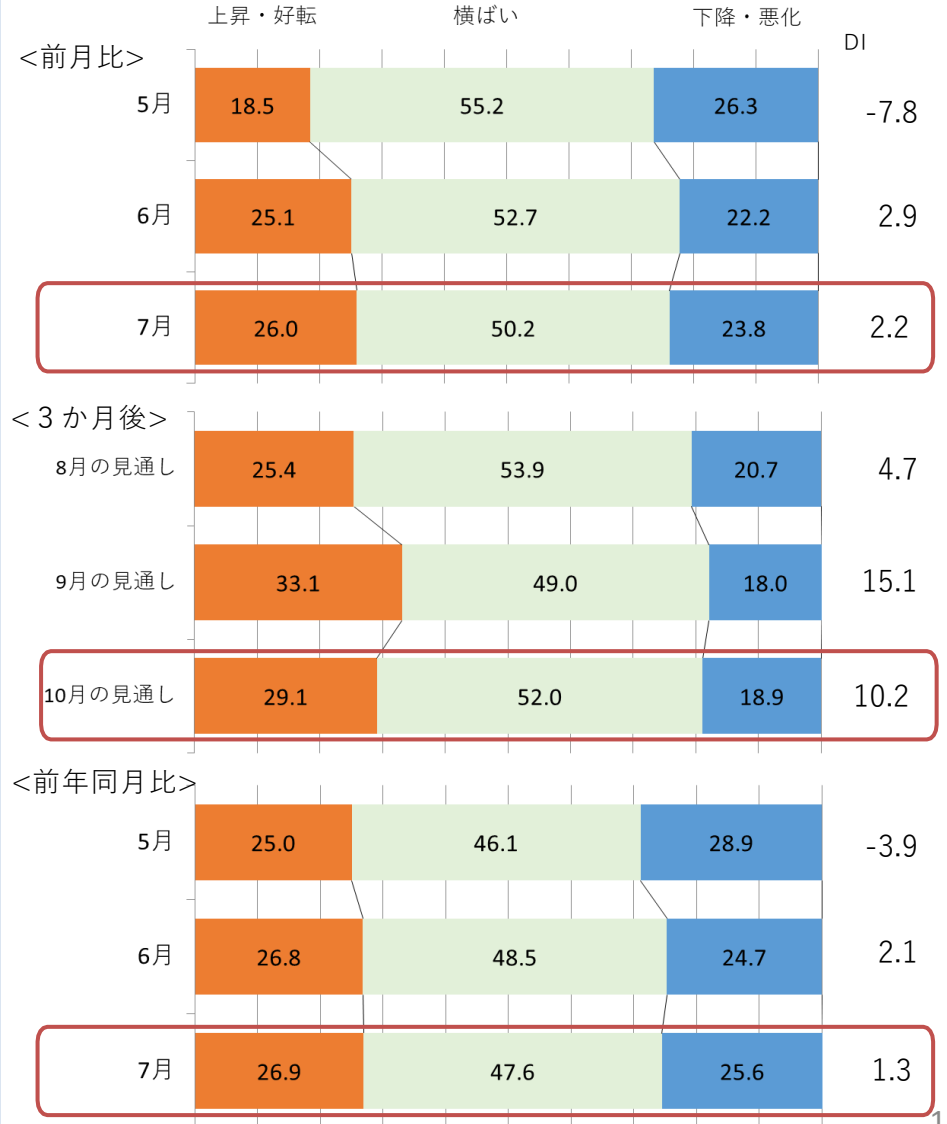
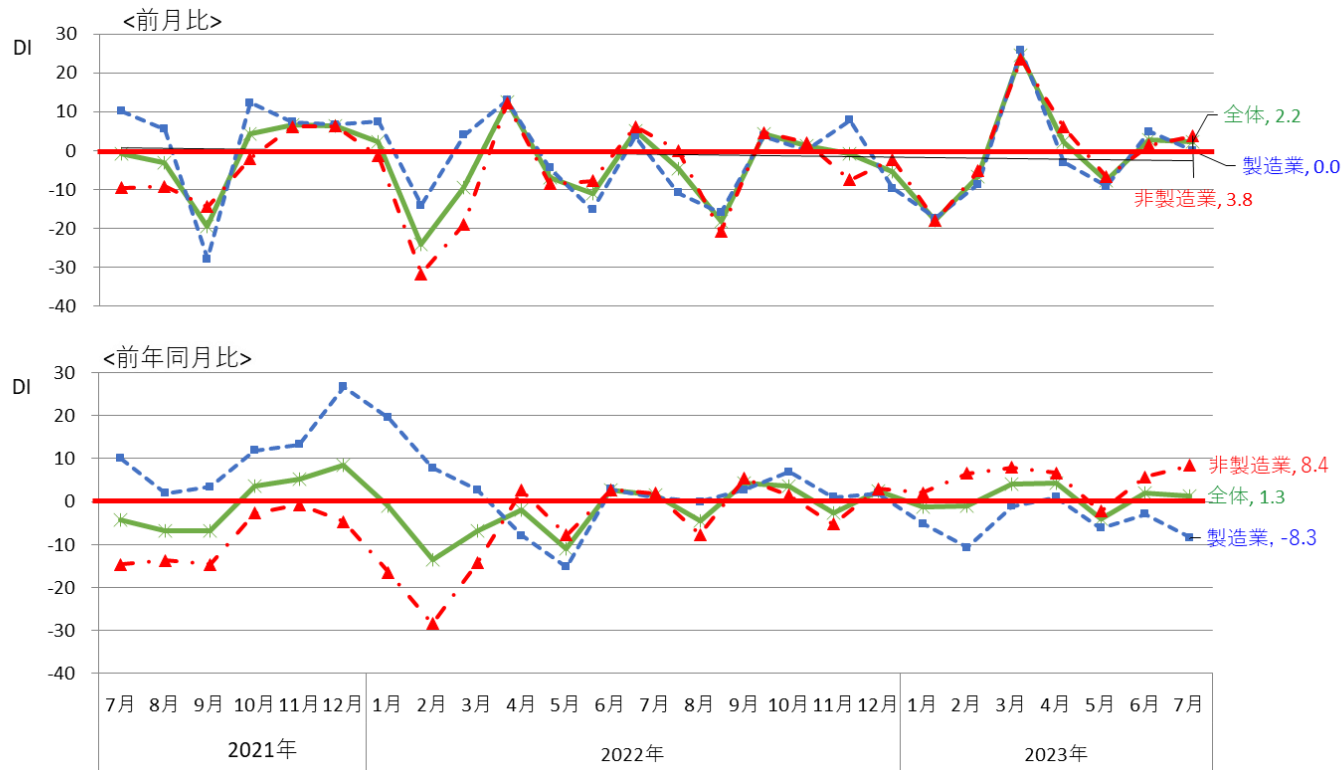


図 B 景況DIの推移（業種別）



* D I（Diffusion Index）は、「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

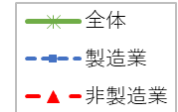
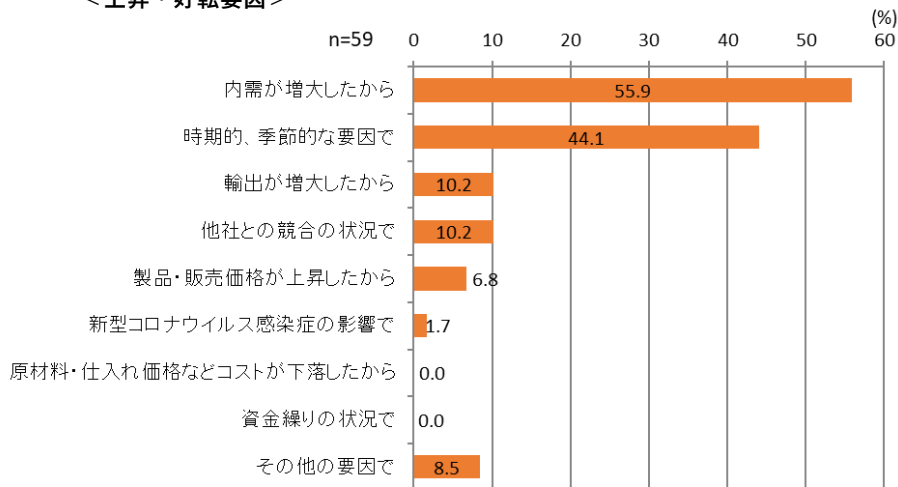
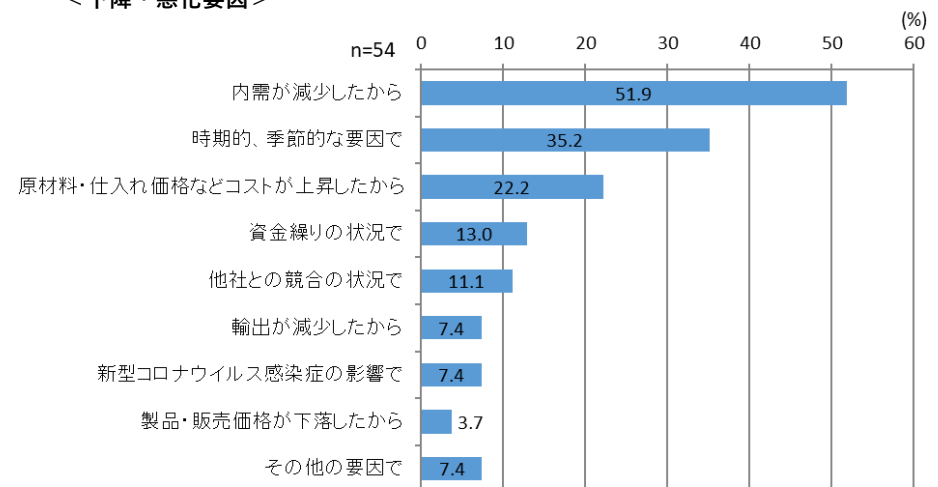


図 C 前月比景況変化の理由

<上昇・好転要因>



<下降・悪化要因>



《資金繰りDIの推移》図D

<全体>

- 今回(7月)の資金繰りDIは、前回(6月)より1.6ポイント下降し、19.8となった。

<業種別>

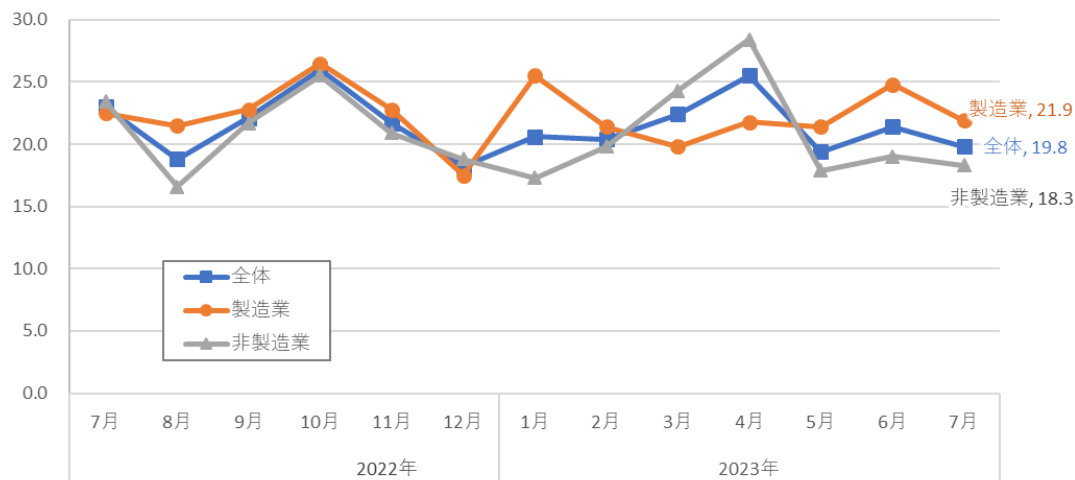
- 製造業では、DIは2.9ポイント下降して、21.9となった。
- 非製造業では、DIは0.7ポイント下降して、18.3となった。

<規模別>

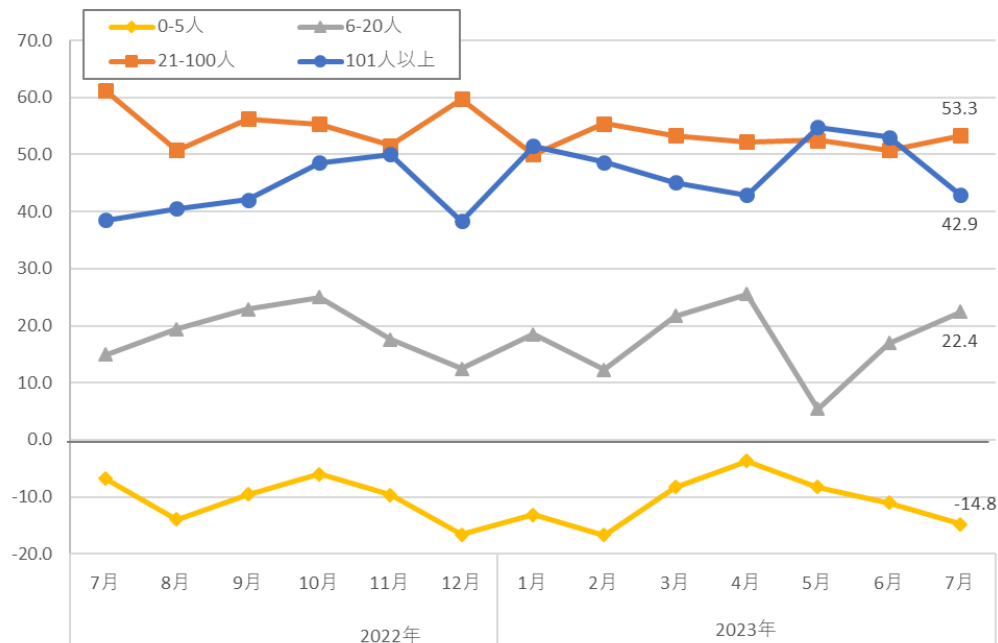
- 0-5人では、DIは3.8ポイント下降して-14.8となった。
- 6-20人では、DIは5.5ポイント上昇して22.4となった。
- 21-100人では、DIは2.5ポイント上昇して53.3となった。
- 101人以上では、DIは10.2ポイント下降して42.9となった。

図D 資金繰りDIの推移

<全体・業種別>



<規模別>



《原材料・仕入・エネルギーの価格上昇や調達難の影響》図E

< 全体 >

- 「マイナスの影響がある」が52.4%、「ややマイナスの影響がある」が30.4%となり、合計すると、82.8%がマイナスの影響があるという結果となった。
- 前月（6月）との比較では、マイナスの影響があるという回答は、前月よりも2.1ポイント上昇した。

< 業種別 >

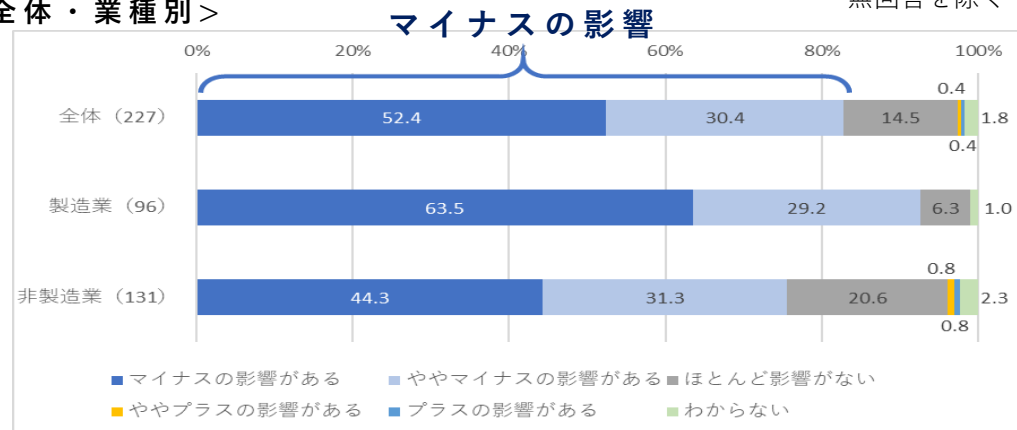
- 製造業では「マイナスの影響がある」が63.5%、「ややマイナスの影響がある」が29.2%となり、合計すると92.7%がマイナスの影響があるという回答結果となった。
- 非製造業では「マイナスの影響がある」が44.3%、「ややマイナスの影響がある」が31.3%で、合計するとマイナスの影響があるのは75.6%となり、製造業よりも低い結果となった。

< 規模別 >

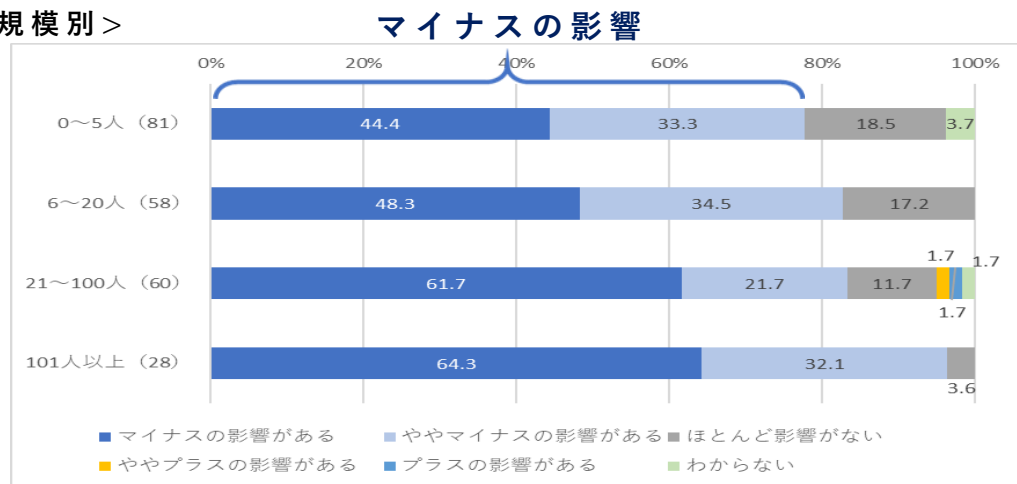
- 「マイナスの影響がある」と「ややマイナスの影響がある」を合計すると、マイナスの影響があるのは、101人以上で96.4%と圧倒的に高く、21-100人で83.4%、6-20人で82.8%、0-5人で77.7%という結果になった。

図E 原材料・仕入・エネルギーの価格上昇や調達難の影響

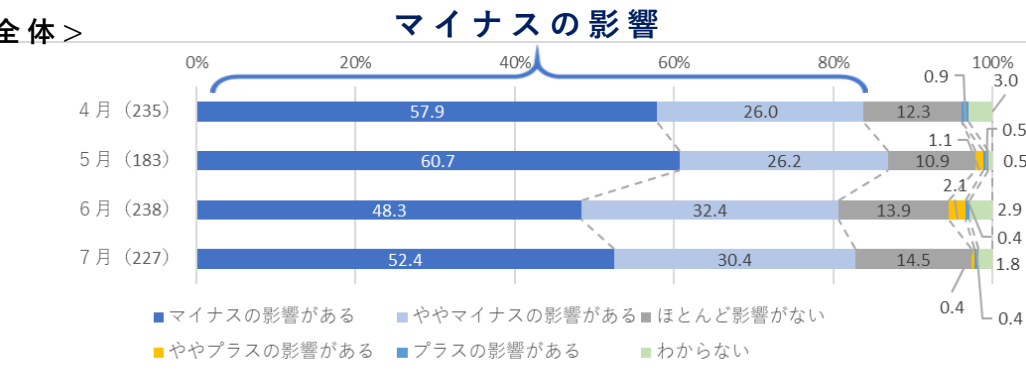
< 全体・業種別 >



< 規模別 >



< 全体 >



《具体的なマイナスの影響の内容》 図F

< 全体 >

- 「原材料・仕入の価格上昇による商品価格の値上げ」が72.3%と最も高く、続いて「エネルギー（電力・ガス・燃料油など）価格の上昇等による輸送コストや光熱費等の上昇」が60.1%、「粗利益の減少(価格据え置き)」が50.5%、「原材料・商品の調達難による商品価格の値上げ」が36.2%となった。

< 業種別 >

- 製造業では「原材料・仕入の価格上昇による商品価格の値上げ」が83.1%と最も高く、「エネルギー価格の上昇等による輸送コストや光熱費等の上昇」が65.2%、「粗利益の減少(価格据え置き)」が52.8%となった。
- 非製造業では「原材料・仕入の価格上昇による商品価格

の値上げ」が62.6%と最も高く、次いで「エネルギー価格の上昇等による輸送コストや光熱費等の上昇」が55.6%、「粗利益の減少(価格据え置き)」が48.5%となった。

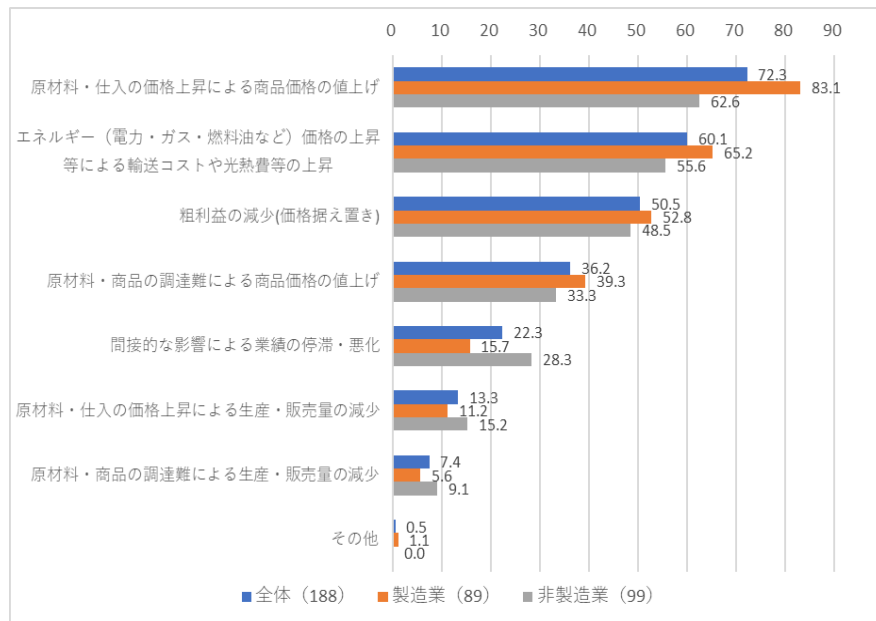
< 規模別 >

- 「原材料・仕入の価格上昇による商品価格の値上げ」は、21-100人で84.0%、6-20人で77.1%、0-5人で63.5%、101人以上で63.0%といずれの規模でも高い割合を占めた。
- 「エネルギー価格の上昇等による輸送コストや光熱費等の上昇」は、21-100人で70.0%、6-20人で60.4%、101人以上で55.6%、0-5人で54.0%となった。
- 「粗利益の減少(価格据え置き)」は、6-20人で54.2%、0-5人で54.0%、101人以上で48.1%、21-100人で44.0%となった。

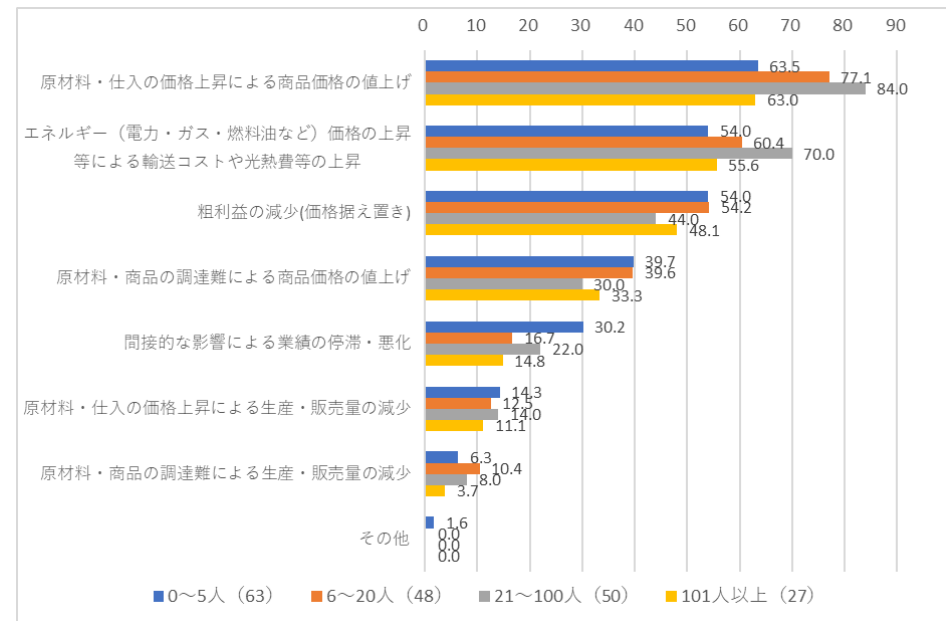
図F 具体的なマイナスの影響の内容

図Eで「マイナスの影響がある」、「ややマイナスの影響がある」と回答した人のみの集計

< 全体・業種別 >



< 規模別 >



《原材料等の価格上昇や調達難への対応》図G

< 全体 >

- 「販売価格への転嫁」が63.1%と最も高く、次いで、「販売・営業の強化」が32.0%、「経費（人件費以外）の削減」が26.6%となった。

< 業種別 >

- 製造業では「販売価格への転嫁」が83.2%と8割を超え、「販売・営業の強化」が33.7%、「生産性の向上」が32.6%となった。
- 非製造業では「販売価格への転嫁」が48.0%と最も高

く、「販売・営業の強化」が30.7%、「経費（人件費以外）の削減」が24.4%となった。

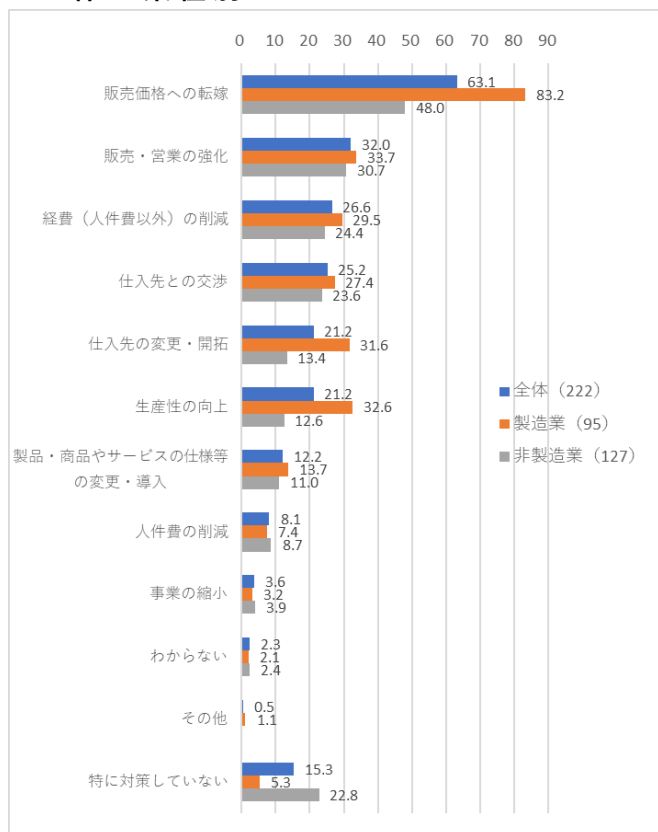
< 規模別 >

- 「販売価格への転嫁」は、101人以上で89.3%、21-100人で76.3%と7割を超え、6-20人で60.3%、0-5人で45.5%となっており、規模が大きいほど販売価格への転嫁ができています。
- 「生産性の向上」も規模が大きいほど高くなっている。
- 101人以上では「販売価格への転嫁」のほか、「生産性の向上」が46.4%、「販売・営業の強化」が42.9%、「仕入先との交渉」が39.3%と高い割合を占めている。

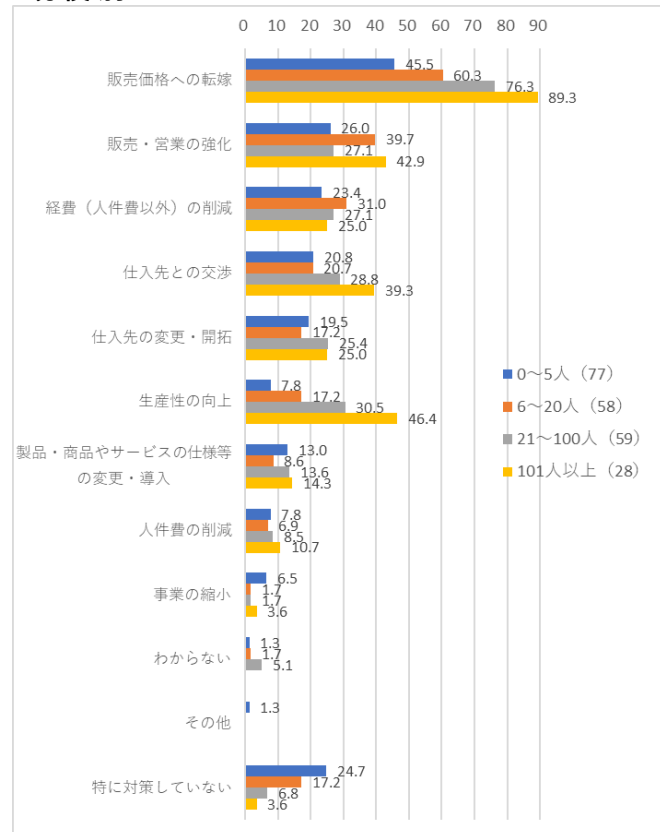
図G 原材料等の価格上昇や調達難への対応

図Eで「わからない」と回答した人を除く集計

< 全体・業種別 >



< 規模別 >



《2022年度決算における売上高と23年度見通し（対前年度）》図H

< 全体 >

- 2022年度実績では、“減少”（「5%以上減」，「10%以上減」，「20%以上減」，「50%以上の減少」の合計）は前年度（2021年度）より4.6ポイント下降して31.7%となった。一方、“増加”（「20%以上増」，「10%以上増」，「5%以上増」の合計）は6.4ポイント上昇して43.9%となった。2021年度は“減少”と“増加”が同程度の割合であったが、22年度は“増加”が“減少”を上回った。
- 減少率別にみると、「10%以上」が10.9%、「5%以上」が10.0%「20%以上」が9.0%、「50%以上」が1.8%となった。
- 2023年度見通しは、“増加”はほぼ横ばいで43.4%、“減少”は25.2%に下降する見通しとなった。

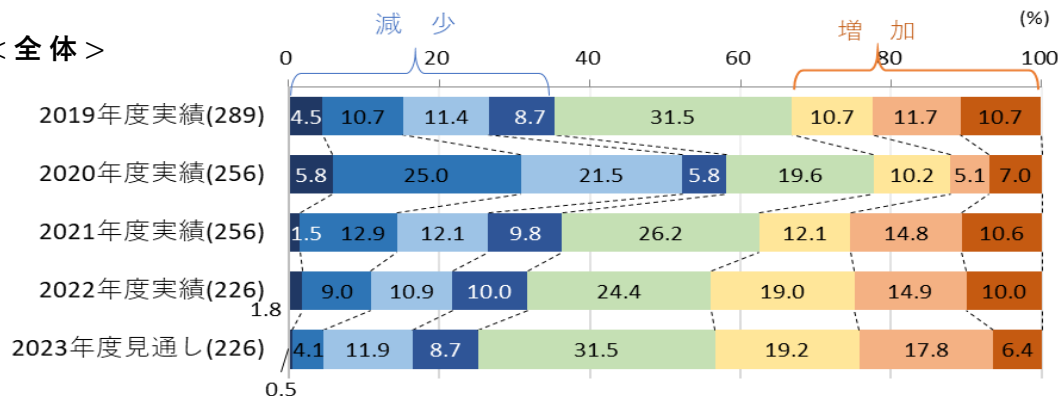
< 業種別 >

- 製造業の2022年度実績をみると、“減少”は7.1ポイント下降して30.8%、一方、“増加”は9.9ポイント上昇して48.9%となり、かなり持ち直しが見られた。2023年度見通しについては、“増加”がやや下降して46.2%となったが、“減少”も下降して24.2%となった。
- 非製造業の2022年度実績をみると、“減少”は2.9ポイント下降して32.2%、“増加”は3.7ポイント上昇して40.2%となり、持ち直しが見られた。2023年度見通しについては、“減少”は下降して25.8%、“増加”はやや上昇して41.4%となり、さらに持ち直しが進む見通しとなった。

図H 2022年度決算における売上高と23年度見通し（対前年度）

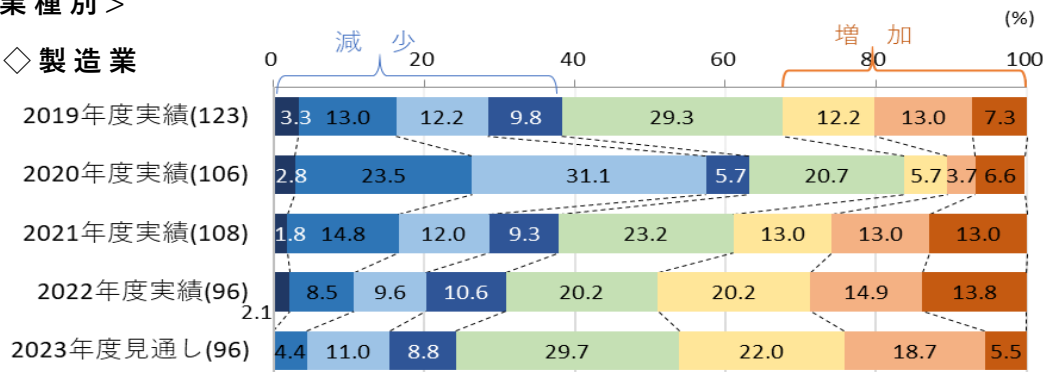
「わからない」と回答した人を除く集計

< 全体 >

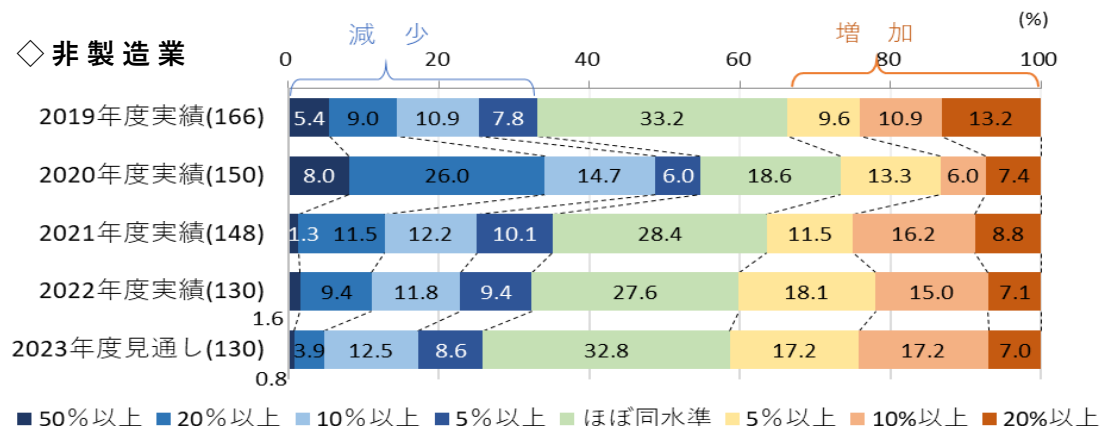


< 業種別 >

◇ 製造業



◇ 非製造業



■ 50%以上 ■ 20%以上 ■ 10%以上 ■ 5%以上 ■ ほぼ同水準 ■ 5%以上 ■ 10%以上 ■ 20%以上

図1 2022年度決算における売上高と23年度見通し(対前年度)(続き)

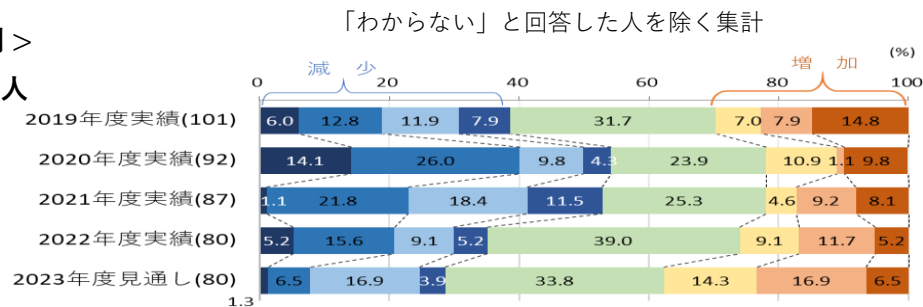
《2022年度決算における売上高と23年度見通し(対前年度)》図

<規模別>

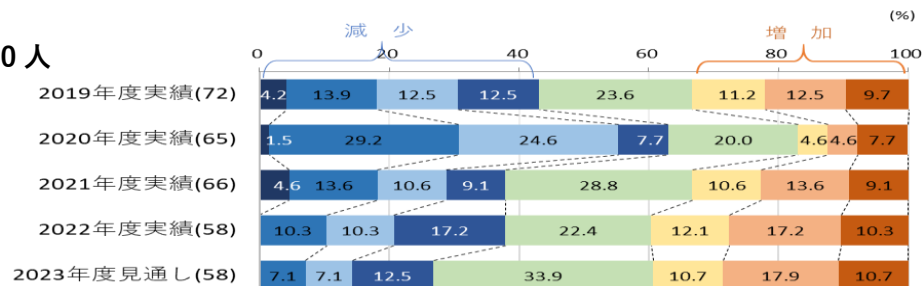
- 0-5人の2022年度実績をみると、“減少”の割合は17.7ポイントと大きく下降して35.1%となり、一方、“増加”は4.1ポイント上昇して26.0%となり、持ち直しが見られた。2023年度見通しをみると、“減少”はさらに下降して28.6%となり、“増加”は上昇して37.7%となる見通しとなった。
- 6-20人の22年度実績は、“減少”は37.8%と現状維持で、“増加”は6.3ポイント上昇して39.6%となり、持ち直しが見られた。
- 21-100人の前年度実績では、“減少”、“増加”いずれにおいても顕著な持ち直しが見られたが、22年度は、“減少”が8.5ポイント上昇して25.5%となった。一方、“増加”はさらに7.4ポイント上昇して64.3%に達した。
- 101人以上の前年度実績では、顕著な持ち直しが見られたが、22年度はさらに“減少”が6.8ポイント下降して22.2%、“増加”は11.8ポイント上昇して59.2%となり、持ち直しが進んだ。23年度見通しは、“減少”は現状維持で、“増加”は下降して40.7%となる見通しであるが、“増加”が“減少”を上回る状況が持続する見通しとなった。

<規模別>

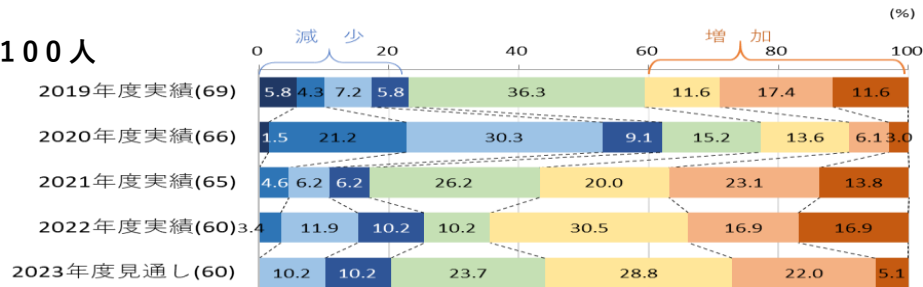
◇0-5人



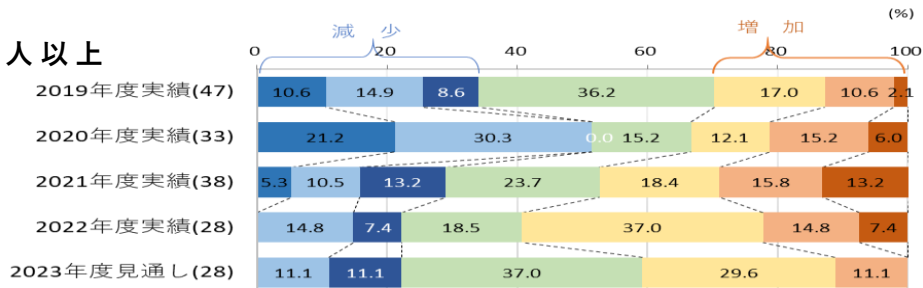
◇6-20人



◇21-100人



◇101人以上



■ 50%以上
■ 20%以上
■ 10%以上
■ 5%以上
■ ほぼ同水準
■ 5%以上
■ 10%以上
■ 20%以上

図J 2022年度決算の営業利益

《2022年度決算の営業利益》図J

< 全体 >

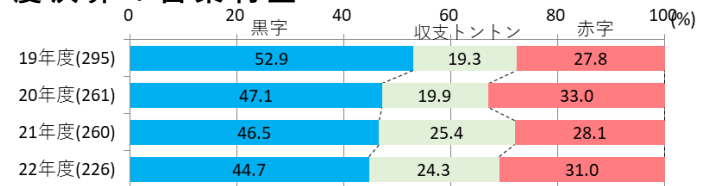
- 2022年度決算の「黒字」はやや下降して44.7%、「赤字」はやや上昇して31.0%となった。
- 前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」は1.4ポイント上昇して34.5%、「悪化」はやや下降して29.6%となり、「改善」が「悪化」を上回る状況が持続している。

< 業種別 >

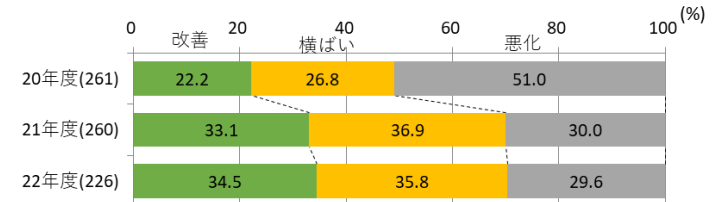
- 製造業では「黒字」はほぼ横ばいで47.9%、「赤字」はやや上昇して26.0%となった。前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」は4.5ポイント上昇して42.7%、「悪化」も2.9ポイント上昇して30.2%となった。
- 非製造業では「黒字」が3.0ポイント下降して42.3%、「赤字」が3.9ポイント上昇して34.6%となり、厳しさが見られる。前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」はやや下降して28.5%、「悪化」は2.8ポイント下降して29.2%となった。

< 全体 >

黒字 / 赤字



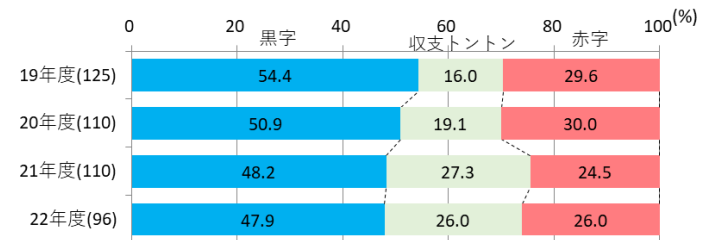
前年度と比較した 収益の水準（改善/悪化）



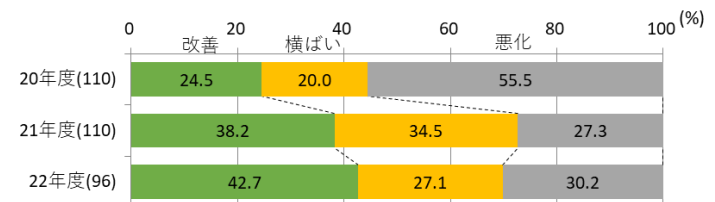
< 業種別 >

◇ 製造業

黒字 / 赤字

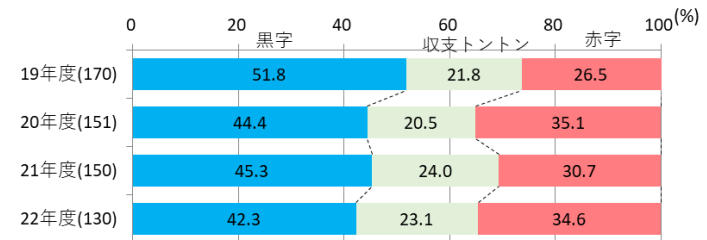


前年度と比較した 収益の水準（改善/悪化）

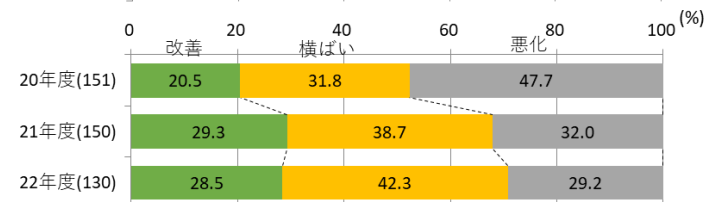


◇ 非製造業

黒字 / 赤字



前年度と比較した 収益の水準（改善/悪化）



《2022年度決算の営業利益》 図K

< 規模別 >

- 0-5人の22年度の「黒字」は0.9ポイント上昇して22.5%となったが、「赤字」が11.5ポイントと大幅に上昇して51.3%となり、「赤字」が「黒字」をさらに上回る結果となった。前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」は4.1ポイント上昇して20.0%、「悪化」は3.9ポイント下降して32.5%となり、改善へと進んだ。
- 6-20人では「黒字」は7.3ポイント下降して34.5%、「赤字」は5.0ポイント下降して29.3%となった。前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」は2.6ポイント上昇して31.0%、「悪化」はほぼ横ばいの34.5%であり、「悪化」が「改善」を上回る状況が続いているが、その差は縮まった。
- 21-100人では「黒字」は4.5ポイント上昇して71.7%、「赤字」は4.6ポイント下降して13.3%となり、さらに「黒字」が上回った。前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」は4.3ポイント上昇して55.0%、「悪化」は2.4ポイント上昇して23.3%となった。
- 101人以上では「黒字」は4.9ポイント下降して71.4%、「赤字」は6.4ポイント上昇して14.3%となった。前年度と比較した収益の水準（改善/悪化）では、「改善」は10.7ポイント下降して39.3%、「悪化」はやや上昇して25.0%となった。

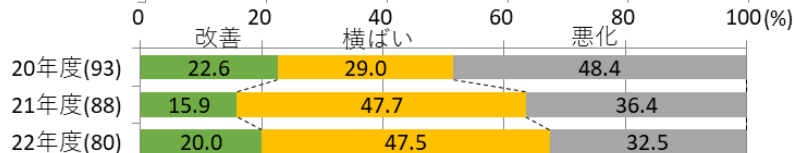
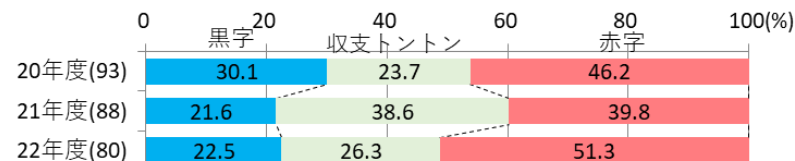
図K 2022年度決算の営業利益（続き）

< 規模別 >

◇ 0 - 5 人

黒字 / 赤字

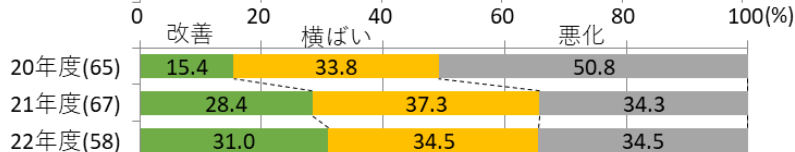
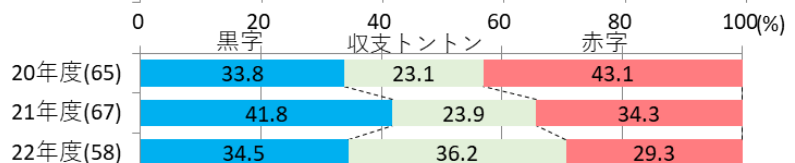
前年度と比較した 収益の水準（改善 / 悪化）



◇ 6 - 20 人

黒字 / 赤字

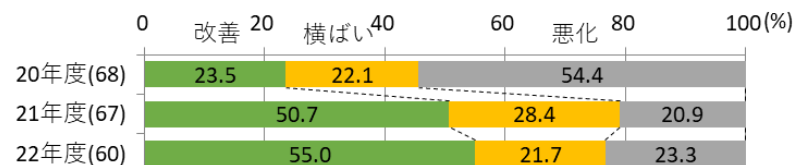
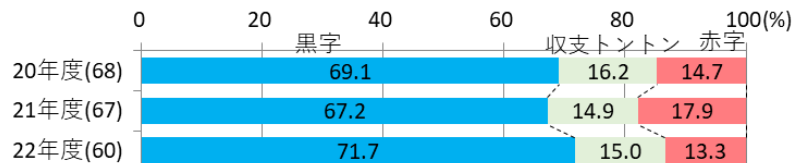
前年度と比較した 収益の水準（改善 / 悪化）



◇ 21 - 100 人

黒字 / 赤字

前年度と比較した 収益の水準（改善 / 悪化）



◇ 101 人以上

黒字 / 赤字

前年度と比較した 収益の水準（改善 / 悪化）

